木下

民事詞訟停止ノ質問

茲ニ一ノ民事訴訟アリ其詞訟中同件ニ関スル事柄ニ付キ原被ノ内一人刑事裁判所ニ訴ヘルアアルトキ仏國ノ法律ニ拠レハ民事訴訟ハ如何ナル時ヨリ之レヲ停止スルヲ謹ヲ高諭ヲ乞フ

一千八百七十九年三月八日

古荘

答

私訴民事訴訟ハ左ノ時ヨリ停止ス

第一　軽罪裁判所又ハ違警罪裁判所ニテ検事ヨリ為シタル直チノ呼出ヨリ（此項ハ事件ノ

重大ナラサルモノ

第二　檢事ヨリ糺問判事ニ犯罪吟味ヲ要求シタルトキヨリ（此項ハ事件ノ重大ナルモノ）

第三　被害者自ラ糺問判事ニ告訴ヲ為シタル上私訴人トナリシ時ヨリ凡ソ始メニ民事裁判所ニ私訴ヲナシタル被害者ハ更ニ糺問判事ニ私訴ヲ為スヲ得サルヲ以テ普通ノ規則トス是レ蓋シ一ノ手続ヲ選ヒ之ニ拠リテ訴ヘタル者ハ他ノ手続ニ改メ訴ヘルヲ得スト云フ原則ニ基キテナリ然レトモ今マ私訴ヲ為ス時ニ事実ニ犯罪ノ性質アルヲ知ラスシテ民事裁判所ニ訴ヘタル訟者ハ例外トシテ糺問判事改メ訴ヘルヲ得ルノ権アリトス

以上述ル所ノ三項ニ就キ日本治罪法草案中ニハ仏國治罪法ノ規則ヲ採ラサル所アリ

一千八百七十九年三月九日

ボワソナード

大審院ノ欠席裁判

大審院ニ於テモ欠席裁判ヲ行フヲ得而シテ其欠席人ハ訴裁判ニ対シテ故障ヲ述ルノ権アリ

本件ノ条例ハ旧訴訟人局ニ付テ設ケタル千七百三十八年ノ規則中ニアリ（「ドリピユ」千百四十七丁ヲ見ルヘシ）

欠席裁判ニ対シテ故障ヲ述フルモノハ相手方ノ代言人ニ代昏人ノ費用弁償トシテ百「リウル」ヲ渡スヘシ（第十条及ヒ第十五条）

被告人ヲ請願局ニ喚召スルヿナキヲ以テ欠席裁判ハ他ノ二局ニ於テスルモノトス

原告人ノ欠席ハ之レヲ欠席裁判トセス故ニ原告人一旦上告ヲ為シ其詞訟ヲ継続セサルトキハ呈供シタル呑类ニ拠リテ常ニ出席判決ヲ下スモノトス

欠席ト代呑人ヲ立テ二ケ月内ニ原告又ハ被告トシテ呑類証拠ヲ出サヽル訟者ニ対シテ申渡スヿノ出訴ノ失権（原語之レヲフォルクリユジヨン）ト云フ訟廷閉止ノ義ナリ）トノ混淆スルヿナカルヘシ

此場合ニ於テハ其失権訟者ノ申立ヲ要セスシテ裁判ヲ下シ此裁判ハ之レヲ出席裁判ト見做ス（故ニ之レニ対シテ故障ヲ述フル能ハス）「トリビエル」ハ千七百三十八年ノ規則中ニ出訴ノ失権ノ条例ヲ掲ケスダローズ第七类（自十三丁至十四丁）ノ第二部第五款ニ見ユ

欠席ノ場合ニ於テハ出訴失権ノ場合ト一般大審院ハ精密ニ事件ヲ審査シ原告ノ申立ハ初告ノ訟廷ニ於ルカ如ク審査ヲモナサスシテ之ヲ取上ケサルヘシ控訴上告ヲ別ス大審院ハ訴願ヲ吟味スルニ最モ注意ヲ加ヘサルヘカラス何トナレハ前裁判完全ノモノナレハ之ヲ認否スル（控訴ナレハ）ヲ得ス又之ヲ破毀スルヲ得ス加之訟者ノ一方ノ者未リテ自己ノ防禦ヲ為スヲ得サルヲ以テ法廷ニ信ヲ置クト否ラサルトニ因リテ大ニ関係スル所アレハナリ

千八百八十年十二月

於東京　ボアソナード

木下

ボアタル氏訴訟法詳説抄訳

第四百五十六条ニ曰ク控訴状ニハ法律所定ノ期限内ニ相手方ノ控訴院ニ呼出ス旨ヲ記シ之ヲ相手方ノ本人又ハ其住所ニ送達スヘシ但シ此法式ニ遵ハサル時ハ訴状ニ効ナカルヘシ

一千六百六十年王令昏ニ定ムル所ノ控訴法ヲ見ルニ凡ソ控訴ヲ為スニハ先ツ其旨ヲ裁判所昏記局ニ申立テ裁判執行ヲ停止ス後ヲ其出訴ノ旨ヲ敵手ニ通知ス此昏記局ニ申立ツルノ主意ハ控訴院ニ再審ヲ願ヒ出ルニ在ラスシテ只タ初告裁判ノ直者ヲシテ裁判執行ノ遅延セ

シムルニ在リ控訴中立ノ後チ控訴裁判ノ始ノサルキハ被告（控訴ノ被告）ヨリ原告ニ控訴ノ促シ若シ（控訴ノ日ヨリ三月内ニ控訴ノ申立ヲ為サザルトキハ控訴ノ権ヲ失ハス）原告控訴ノ権ヲ失ハス再ヒ控訴ヲ為ス

ヲ得故ニ初審裁判ノ決行延引シ大ニ訴訟者ノ入費ヲ要スルニ至リ此弊ヲ改メンガ為ノ今日ノ法典ニハ四百五十六条ニ明文スル如ク單ニ原告ヨリ被告ニ控訴通知状ヲ達スルヲ以テ始メテ控訴ヲ為スモノトス

第四百五十六条第一項　確定ノ裁判又ハ本案ニ関スル預審裁判ノ控訴ハ其裁判ノ執行ヲ停止ス云々

此条ニ拠レハ控訴ハ初告裁判執行ヲ停止スル控訴ハ初告裁判所ニテ審判シタル事件ヲ尽ク再審スルヲ以テ控訴審判中ハ初告裁判ノ執行ヲ停止スルヲ以テ当然ナリトス控訴通知状ヲ送達シタル後チニ為シタル執行ノ所為ハ全ク効ナキモノトス

既ニ控訴ニテ襲撃シタル裁判ノ執行ヲ停止スト雖モ襲撃スヘキ裁判ハ其執行ヲ停止セス故ニ控訴期限中未タ控訴通知状ヲ被告ニ送致セサルキハ裁判ヲ執行ス

柿内一郎訳

トリビユー氏仏國成典

〇千七百九十年八月十六日ヨリ二十四日ニ至ル間ノ司法構成ニ関スル法令

第十一巻　違警罪事件ニ関スル裁判官ノ事

第三条　邑廳ノ管督権内ニ委任スル警察上ノ諸件左ノ如シ

第一　市街公場及ヒ公道ノ通行ノ安寧及ヒ便益ノ保護シ掃除点燈障碍物ノ除去荒蕪シタル家屋ノ破毀又ハ修復窓又ハ家宅ノ他ノ部ヨリ墮落シテ害トナルヘキ物ノ突出シ及ヒ通行人ニ傷ツケ又ハ通行人ノ害

スハキ物ヲ投射シ又ハ有害ノ臭氣物ヲ発
生スルヲ禁制スル事

第二　公安ニ関スル犯罪ニシテ瓦ノ如キ者
ヲ逮捕シ又ハ罰スルヿ即チ市街ニ於テ衆
人ノ相ト集合シ喧譁争論ヲ為シ又ハ公然
人ノ集合セル場所ニ於テ騒擾シ又ハ夜中
人ノ眠ニ就キシ時暴動衆集スル者等是シ
ナリ逮捕シ又ハ罰スルヿ

第三　衆人ノ群集スル場所ノ安全ヲ保護ス
ルヿ即チ大市場市場祝日祭日劇場遊戯場
寺院其他ノ公場ヲ保護スルヿ

第四　度量衡ヲ以テ食物ヲ商フ者及ト公賣
スル食物ノ健康ニ適スルモノヲ検察スル
ヿ

第五　災害疫病火災流行病畜類流行病預防
及ト救助法ヲ施コシ之ヲ減除セシムルヿ
但シ最終ニ個ノ場合ニ於テハ別又ハ郡ノ
官吏ニ照会スヘシ

第六　放出セル疯癲人或ハ狂暴人及ト猛獸
ノ逸出ノ為メニ起ル悲惨ナル危害ノ防守
又ハ治療ヲ看守スルヿ

第四条　公ノ演劇ハ必ス邑廳官吏ノ許可ヲ経ヘ
シ

千七百九十一年七月十九日ヨリ二十二日ニ
至ル間ノ邑制及ト懲治規則ニ関スル勅令

第四十六条　邑ノ違警罪裁判所及ヒ邑廳ニ於テハ規則ノ設立スルヲ得ス但シ邑廳ニ於テハ（デリベラーション）議ノ名義ヲ以テ左ノ条件ニ関スル違ヲ為スヲ得ヘシ尤モ州廳ノ施政ニ因リ又ハ郡廳ノ施政上ノ議決ニ因テ政正スルヿアルハ此限ニアラス

第一　八月十六日ノ勅令第十一条第三条及ヒ第四条ニ於テ司法構成ニ依リ邑廳ノ管督権内ニ附与シタル条件ニ就テ其部局内ノ豫防ヲ命スヘキ時

第二　実ニ法律及ヒ警察規則ノ公布スルヿ即チ邑廳ノ注意ヲ以テ之ヲ再達スルヿ

林内

千八百十一年十月二十日ノ印刷物ニ管スル法律

第二篇

第十一条　壬ノ許可ヲ受ケス及ヒ誓約ヲナサスシテ印刷及ヒ呑籍商業ヲ営ムヘカラス

第十二条　凡テ印刷及ヒ呑籍商業ニ就キ裁判ニ因テ法律及ヒ規則ニ違犯セシコトヲ証明セラレタル者ハ其営業ノ許可ヲ奪取スルヲ得

第十三条　上申セスシテ密カニ営業セシキハ其印刷器械ヲ破毀シ且ツ所有者及ヒ受托者ハ六ヶ月ノ禁錮ニ処シ一万フランクノ罰金

ノ科ス但シ凡テ総呑籍検査署ニ上申セサル
カ又ハ允許ヲ得サル所ノ印刷ハ之ヲ営業
トナス

第十四条　凡テ印刷ノ営業スハキコトヲ上申
スル前ニ印刷スルヲ得ス入如何ナル方法ヲ
ルヲ問ハス呑鋪取締署ヨリ指令ヲ受ケタル
印刷物ノ数ヲ上納スル前ニ於テ発行シ或ハ
発賣スルヲ得ス○即チ已里府ニ於テハ総呑
籍検査署ニ上申シ且ツ印刷物ヲ上納シ郡ニ
於テハ縣廳ノ呑籍検査局ヘ上申シ且ツ上納
ス

第十五条　印刷者ヲ差押ヘ又ハ預ケ置クヘキ
場合左ノ如シ

第一　印刷者ノ営業上申簿ニ登記ナキ又
ハ前条ニ於テ掲示セル呑籍ヲ上納セサル
時

第二　各上納呑ニ印刷者ノ実氏名及ヒ真住
所ヲ登記セサル時

第三　発行呑籍ノ為メニ訴訟ヲ受ケタル時

第十六条　前条ニ掲載セル所ノ印刷創営前ノ
上申ノ欠失及ヒ発行前ノ呑籍上納ノ欠失ニ
付キ初度ニ係ル者ハ各々千フランクノ罰金
ニ処シ其再度ニ係ル者ハ各二千フランクノ
罰金ニ処ス

第十七条　印刷者負中ノ記入ノ欠失及ヒ其氏
名又ハ其住所ノ記載ノ欠失ニ就テハ三千フ

フランク」ノ罰金ヲ科ス○偽氏名或ハ偽住所ノ記載ニ就テハ刑法ニ記載スル所ノ禁錮ノ刑ニ処スルコトナク六千「フランク」ノ罰金ヲ科ス

第十八条　該法律ノ犯則ノ為メニ差押ヘタル上納呑籍ハ罰金完納ノ後之ヲ返還ス

第十九条　印刷者ノ氏名ヲ登記セスシテ呑籍ヲ販賣シ或ハ発送シタルコトヲ発覚セシ呑籍商ハ該法律公布以前ニ印刷シタル者アラサル外ハ二千「フランク」ノ罰金ニ処ス○但シ此罰金ハ若シ呑籍商ヨリ印刷者ニ通知ナシタルトキハ一千「フランク」ヲ減却ス

第二十条　犯則アルコトハ呑籍商検査員及ヒ警察委員ノ調査ニ因テ証明ス

第二十一条　検事ハ職トシテ呑籍商検査長ノ告発及ヒ其調査謄本ノ送附ニ対キ軽罪裁判所ニ起訴ス

千八百六十八年五月十一日ノ印刷書類ニ関ス
ル法律

柿内一郎訳

第一条　仏朗西國ノ丁年者ニシテ民権又ハ政
権ヲ有スル者ハ日々新誌或ハ時々新誌ノ定
日ヲ以テ刊行スルト定日ナク刊行スルトヲ
問ハス政府ノ許可ナクシテ発兌スルヲ得

第二条　日々或ハ時々刊行ノ新誌ヲ発行スル
ニ巴里府ニ於テハ警視総監即ニ於テハ県令
ハ左ノ簡条ヲ掲載セル上申書ヲ遅クモ其発
行ノ四日前ニ進達スヘシ

第一　日々或ハ時々新誌ノ称号及ヘ発行ノ
時日

第二 資本出金者ノ他ノ所有者ノ氏名、住所
及ヒ其権力

第三 社長ノ氏名及ヒ住所

第四 印刷ニ従事スル場所

凡テ石ニ掲載スル諸件ノ変換アルトキハ其変換後十五日以内ニ申達スヘシ○此条例ニ対スル犯則事件ハ、総テ千八百五十二年二月十七日ノ勅令第五条ニ記載スル所ノ刑ニ処ス

第三条 千八百五十二年二月十七日ノ勅令第六条ヲ以テ制定シタル印紙税ヲセイヌ及ヒセイヌ、エー、オアズ郡ニ於テハ五「サンチーム」ニ減シ他ノ諸郡ニ於テハ二「サンチーム」ニ減ス○千八百五十二年二月十七日ノ勅令第六条第三項ハ之ヲ廃ス○印紙税ハ諸報告ヲ載セタル侵補負ノ撰挙ノ掲示其侵補負ノ署名シタル田文或ハ唯ニ氏名ノミヲ載セタル掲示ニ之ヲ賦課ス○千八百五十二年二月十七日ノ勅令第六条ヲ以テ定メタル定期ヲ以テ刊行セサル印刷紙十葉ヲ六葉ニ減シ且ツ印紙税ヲ毎葉ニ就キ四「サンチーム」ニ減ス

第四条 印紙税ヲ収納シアラスシテ単純ノ新紙ニ代ケルト同様紙葉ニ公告ヲ載セ新誌ノ表紙トナシテ之レヲ附合セシ或ハ各別ニスルモ之レヲ同時ニ配達シ或ハ発賣スルトキハ之レヲ新誌ノ附録トナシ印紙税ヲ賦課ス

第五条　保証金ヲ收納スル所ノ日々或ハ時々新誌ニシテ其附録ノ如何ナル性質ナルト又如何ナル場合ナルトヲ問ハス公告ヲ記載セサルヿ又ハサナクモ其紙面ノ半分ヲ以テ千八百六十一年五月二日ノ法律第一条ニ掲載スル所ノ官令ノ記載ニ供シタルヿハ其印紙税及ヒ郵便税ヲ免除ス

第六条　前条規則ノ犯則ニ就テハ千八百五十二年二月十七日ノ勅令第十条及ヒ第十一条第一項ノ規則ヲ適用ス○罰金ハ如何ナル場合タリト雖モ新誌ニ就テ収納スル保証金又ハ政談或ハ國事論ヲ記載スルヿ収納スル所ノ保証金ノ三分一ヲ超過スヘカラス

第七条　日々或ハ時々新誌ノ各葉或ハ各部ノ発行毎ニ新誌ヲ擔任セル社長或ハ擔任社長ノ数名アルヿハ其一名ノ署名セル様昏ヲ以テ首府ニアツテハ副縣令ニ進達シ郡ノ首地ニアツテハ縣令ニ進達シ又他ノ都邑ニアツテハ邑長ニ進達ス○亦其様昏ヲ検事局或ハ始審裁判所アラサル都邑ニ於テハ邑廳ヘ進達ス○此様昏ハ印紙税ヲ免除ス

第八条　日々或ハ時々新誌ハ元老議員或ハ立法議員タル者擔任社長ノ資格ヲ以テ署名スルヲ得ス○此犯則アルニ於テハ其新誌ヲ無記名ノモノト見做シ其印刷者及ヒ所有者ニ対シ五「サンテーム」以上三千「フランク」以下ノ

罰金ヲ命ス

第九条　民権及ヒ政権ヲ剝奪サレ或ハ仏朗西國領地ニ居住スルコトヲ禁セラレタル者ノ署名シタル条ヲ登記セル日々或ハ時々新誌ノ発行ニ就テハ其新誌ノ責任者即チ社長ニ●対シ千「フランク」以上五千「フランク」以下ノ罰金ヲ科ス

第十条　印刷事件ニ因テ犯シタル軽罪及ヒ違警罪ノ訴訟事件ニ就テハ治罪法第百八十四条ノ規則ニ従ヒ直チニ軽罪裁判所或ハ重罪裁判所ニ召喚ス○一度ヒ軽罪裁判所或ハ重罪裁判所ノ召喚ヲ受ケ出廷シタル所ノ被告人ハ其召喚ニ対シ欠席スルヲ得ス

第十一条　凡テ違警罪タルハキ一個人ノ事ニ関スル時々新誌ノ発行ニ就テハ五百「フランク」ノ罰金ヲ科ス○但シ一族中ノ告訴ニ係ルニ非サレハ其訴訟ヲ受理セス

第十二条　印刷事件ニ因テ犯シタル重罪ニ就キ刑ヲ言渡シタルトキハ別ニ禁止ノ言渡ヲナサスシテ其社長ノ刑ヲ言渡サレタル新誌ノ発行ヲ禁止ス○特殊ノ罪ヲ犯シタルノ他印刷上ノ犯罪ニ就テ第一ノ刑ノ言渡アリタルヨリ起算シ二年間ニ両回罪ヲ犯シタルトキハ裁判所ニ於テ其同質再犯罪ヲ罰シ尋テ十五日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間ノ発行停止ヲ言渡スヲ得○同犯罪ノ三犯ニ係

ルキハ二月以上六月以下ノ停止ヲ言渡スヲ得○若シ犯罪ノ刑法第八十六条、第八十七条、及ヒ第九十一条ニ掲載セル重罪ノ一ノ教唆ニ係リ或ハ千八百十九年五月十九日ノ法律第九条ノ犯罪ニ係ルモノタルキハ初犯タリト雖モ亦前項ニ同シ○但シ停止間ハ其保証金ヲ官署ニ預リ置キ他ノ使用ノ為メ之レヲ請取ラシムルコトヲ得ス

第十三条　日々或ハ時々新誌ニ停止或ハ禁止ヲ言渡シタル所ノ裁判即チ判決ノ執行ハ特例ヲ以テ其禁止或ハ停止ニ係ル上告アルニ関セス假リニ之レヲ執行スルヲ得○亦罰金言渡シニ付テモ同一ナリトス但シ千八百五十二年二月十七日ノ勅令第二十九条、第三十条及ヒ第三十一条ノ規則ヲ用フルコトナシ○前項ノ如シト雖モ欠席裁判或ハ対審裁判ノ言渡ノ後二十四時間ノ内ニ上訴ナシタルキハ其執行ヲ停止ス○上訴ハ必ス最近ノ裁判廳ニ於テ再審ス○此上訴ハ三日内ニ判決ス○再審ノ権ニ於テハ前假執行ヲ命シタル所ノ裁判々決ノ為メニ拘束セラルヽコトナシ

第十四条　新誌ノ社長ハ特ニ新誌印刷ノ為メニ使用スル印刷所ヲ定立スヘシ

第十五条　刑法第四百六十四条ハ印刷事業ニ就テ犯シタル重罪、軽罪及ヒ違警罪ニ就テモ適用ス但シ罰金ハ五十「フランク」ヨリ減少ス

ルヲ得サルコトナレ

第十六条　千八百五十二年二月十七日ノ勅令第一条第三十二条及ヒ都テ此法律ニ抵触セル前法律ノ条件ヲ廃ス〇千八百五十二年二月十七日ノ勅令第十六条ニ掲載スル場合ニ就テノ停止ハ司法権ニアラサレハ命スルヲ得ス

木下

官署ノ呼出シニ應セサル者公ニ対ス意見

司法官又ハ行政官ヨリ呼出ノ理由ヲ指示セスシテ其聽ニ人民ヲ呼出スコトアリテ其呼出ニ応シ出頭ヲナサヽル者アル時ハ曰規ニ拠レハ之ニ罰金ヲ課スルヲ得可ク又ヲ禁獄ヲモ課スルヲ得ルナリ

或余ニ問フ此刑罰ハ果シテ正当ナル乎新刑法ニ於テハ違警罪トシテモ之レヲ罰セサルカト要スルニ此問題ハ曰規ノ刑ハ今日廃止ニ属スル乎將タ特別ノ規則トシテ今尚ホ存在スルモノトナス可キ乎ニ在リ

余ノ意見ハ左ノ如シ

第一　一般ノ規則ニ拠リテ見レハ此刑罰ハ正当ノモノニ非ス

第二　刑法ニ明文ナキヲ以テ廃止ニ帰シタルモノトス

第三　新ニ此刑罰ヲ設クルハ不可ナリ

余謂フヲ行政官ハ呼出シノ原因及ヒ其事柄ヲ指示セスシテ其廳ニ人民ヲ呼出スヲ得ス若シ如斯キ呼出ヲナサハ其專横ヲ免カレ難シ凡ソ人民ヲシテ時日ト便利トヲ失ハシメル等ノコトアルヘカラス然ルニ此呼出ノコトニ付テハ行政官中ヨリ專横ノ所置アルヿ明瞭ナリ

百姓商人人力車夫ヲ邑廳又ハ縣廳又ハ警察署ニ日及ヒ時ヲ定メテ呼出スコトアルニ其呼出ヨリ出頭迄ニ二十四時ノ猶豫ヲ置カス又何等ノ事ニテ呼出スヤ其理由ヲ知ラシメス其出頭スルヤ誰ニ出頭ヲ届クヘキ乎其主仕者ヲ知ル能ハス出頭人ハ待ツコト甚タ長ク其間或ハ数時ニ渉ル而シテ其門戸入ハ扣所ノ番人頗ル無礼ナリ加之饑寒ヲ凌キ待ツコト数時間ノ後ヲ出頭人ニ告ケテ云フ今日ハ官吏多忙汝ニ関スル事ヲ執ルノ暇ナシト或ハ云フ今日主任官吏不参ナリト或ハ云フ呼出ハ錯誤ニ出タリト是等ノ事ハ善良ノ行政官ニ有ルマジキコトナリ故ニ呼出ニ応セ

サル人民ヲ罰セントヨリハ寧ロ無用ニ國民ヲ
労セレノミナル官吏ヲ罰セサル可カラス
然シ其喚召ノ必要ニシテ之シニ応セサル者
ニハ其制裁トシテ罰ヲ課セ（ササルル）可カラサ
ルノ場合アリ即チ左ノ如シ
先ツ法廳ヨリ人民ヲ呼出スコトアリ其之シ
ニ応セサル者ニハ制裁アリ而シテ其制裁（場合）
従テ同シカラス
醫師ハ豫審判事ノ依頼ニ因リ鑑定又ハ検証
ノ為メニ召喚サレルコトアリ此呼出ニ応セ
サル者ハ刑法ニ従テ刑罰ヲ受クヘシ他ノ鑑
定人及ヒ証人モ亦タ之シニ同シ
重罪又ハ軽罪ノ嫌疑ヲ受ケタル人民ハ豫審
判事ヨリ其犯罪事件ノ為メニ之シヲ其廳ニ
召喚スヘシ其召喚ニ応セサル者ハ訴判事ヨ
リ随意出頭ノ令状又ハ拘引状（強迫出頭ノ令
状）ヲ発ス喚召ニ応セサル者ノ制裁ハ是ニテ
充分ナリトス
今行政事件ニ於テ呼出ニ制裁ヲ要スヘキ場
合ハ如何ン
租税徴收ニ付テハ呼出ヲ受ケタル人民ノ出
頭セス及ヒ上納セサル事アリ若シ定期ニ上
納セサル者ハ行政官ヨリ之シヲ訴ヘ差押ヲ
行ヒ費用ト共ニ弁済スルノ審判ヲ要ムルヲ
以テ充分ナリトス
家並規定及ヒ公安ニ関スル家屋修繕ノ事ニ

付テハ官署ハ召喚ニ応セサル者ノ費用ヲ以テ必要ノ工作ヲナスヘシ此制裁ハ行政法中ニ規定シアル可シ若シ未タ規定ナレトセハ新タニ之レヲ設定スヘシ

昏類ヲ人民ニ還与スル事ニ付テハ人民ニハ固ヨリ召喚ニ応シテ出頭スルノ利益アリ然ルニ若シ召喚ニ応セサルトキハ其昏類ヲ昏庫ニ入置キ之レヲ附与スル時ニ一ケ月幾何ト定メタル省税ヲ払ハシムヘシ

其他総テノ場合ヲ豫定スル能ハス其疑シキ場合ヲ以テ余ニ質問アラハ余輩ハ其制裁ノ如何ヲ発見スヘシ若シ制裁ナシト決セハ如何ナル制裁ヲ設立ス可キヤヲ決定スヘシ

要スルニ昔時ノ如ク牟屈奴隷ニ非サル人民ヲシテ無益ノ事ニ日子ヲ徒費セシムルコト無キ様ニ注意スヘシ

千八百八十一年十二月廿三日於東京

ボアソナード

司法省文庫
第2421號

2421

1696